

作家不詳
「香り付き石鹼
(エッセンス・オブ・ローズ)のパッケージ」
「石鹼のパッケージ」
オフセット・紙

1920-1940年代

作家不詳
「インダンスレン布のチラシ」
「アンアン・カラー布のチラシ」
「奇異錠のチラシ」
オフセット・紙

1920-1940年代

3 上海に学んだ華人画家たち

マレー半島（現在のマレーシアとシンガポール）の近代美術は、中国系の華人画家たち、中でも特に、上海の美術学校の卒業生たちが重要な担い手となりました。パリに留学後、上海美術専科学校で教鞭をとった劉抗^{リュウ・カン}や、上海美術専科学校を卒業し、パリに留学した張汝器^{チャン・ジューチー}らは、1936年にシンガポールで華人美術研究会を設立し、マレー半島の美術界を率いる存在となっていくます。また、太平洋戦争後に中国からシンガポールに移り、近代美術に重要な貢献を果たした陳文希^{チェン・ウェンシ}、鍾泗賓^{チェオン・スーピン}らも上海の美術学校の卒業生や教師でした。ここでは、マレーシアやシンガポールで活躍した上海ゆかりの華人画家たちの作品を紹介します。

リュウ・カン(劉抗) 「スリッパ」 「古い通り」 油彩・画布	シンガポール 1930 1950
チェン・ウェンシ(陳文希) 「休息」 油彩・画布	シンガポール 1950年代
チェオン・スーピン(鍾泗賓) 「女性像」 油彩・メゾナイトボード	シンガポール 1950
チャン・ジューチー(張汝器) 「林学大の肖像」 油彩・画布	シンガポール 1940年頃

4 上海ゆかりの現代作家たち

1949年に建国された中華人民共和国では、社会主義リアリズムに基づいた美術制作が求められるようになり、1960～70年代の文化大革命では、その方針が徹底して推し進められました。しかし、1979年に改革開放政策が始まると、それまで長く途絶えていた海外の美術動向や思想が、国内にも入ってくるようになります。作家たちは新たな表現を模索し、上海では、新しく抽象表現に軸に置いた作家たちが台頭します。現在アメリカに拠点をおく孔柏基^{コン・バイジー}は、70年代から80年代の初頭にかけてその先駆的な役割を果たし、丁乙^{ディン・イー}、陳墻^{チェン・チアン}ら次世代の作家たちは、一貫して抽象表現に取り組んでいます。一方、黄丕謨^{ホアン・ピーモー}、王向明^{ワン・シアンミン}ら中国美術家協会に所属する作家たちも、多彩な展開をみせています。

コン・バイジー(孔柏基) 「伎楽」 混合技法・紙	制作年不詳
ワン・シアンミン(王向明) 「狭まる空間」 油彩・画布	1989
ホアン・ピーモー(黄丕謨) 「春風春水江南」 木版・紙	1980
チェン・チアン(陳墻) 「作品97」 アクリル・画布	1997
ディン・イー(丁乙) 「十字の出現 99-7」 アクリル・タータン地の布	1999

5 疾走する都市・上海のイメージ

今日の作家たちは、社会の急速な変化に敏感に反応し、時には批判的なまなざしを、時にはクールでユーモアあふれるまなざしを作品にこめます。また、上海に住みながらも、その喧騒とはかけ離れた、静かな白昼夢のような世界を追い求める、楊福東^{ヤン・フードン}のような若手の映像作家も登場しています。個々の作家のまなざしを通してみる上海の街は、皆さんの目にどのように映るでしょうか。

ジャン・ダーリー(張大力)
「2000104」
写真

2000

ヤン・ジェンジョン(楊振忠) 「吹く!」 2チャンネル・ビデオ・インスタレーション	2002
リー・シャン(李山) 「ルージュA」 アクリル・画布	1991
ワン・ジュンジェ(王俊傑) 「上海」 「アレクサンダー広場」 チバクロームプリント	台湾 1997 1997
ヤン・フードン(楊福東) 「見知らぬ天国」 ビデオ(オリジナルは35mmフィルム)(75分)	1997-2002